

◆**単元名**：第2編 世界のさまざまな地域 第2章 世界の諸地域 5 南アメリカ州

④「南アメリカの経済成長と都市」(教科書 p.114-115)

◆**本時の目標**：南アメリカ州の豊富な鉱産資源や農業の進展と結び付けて、ブラジルの経済成長と人口集中による都市問題について理解する。／南アメリカ州の資源開発や経済成長をふまえて、ブラジルを例に人口集中による都市問題について考え、表現できる。

□**指導にあたって**：教科書では p.115 での掲載のみだが、BRICS の各国はそれぞれ教科書に登場する国々である。「ブラジルの経済成長」の場面では、BRICS とは何なのかなどについて扱いたい。BRICSは「造語」で、かつてBRICsと呼ばれたが近年 BRICS として定着しつつあり、組織としてその動きが注目されている。中学校段階での授業における扱いが難しく、ここでは簡単にBRICsの登場から現在(2023年9月)まで、経緯や現状をまとめる。活用されたい。

【BRICsの発展】 2001年、ゴールドマン・サックス社のレポートで、「人口が多く、経済的に将来有望な、成長が見込める国」として、ブラジル・ロシア・インド・中国の頭文字から「BRICs」という言葉が登場し、その後、一般に広く使われるようになった。2009年には4か国による第1回首脳会議が開催され、「発展途上国へ資金を供給して経済発展を支援する」などその目的が確認された。2011年の第3回首脳会議では、新たに南アフリカ共和国が招かれて5か国となり、これを境に「BRICS」とS(South Africa)を大文字にする表記が増えていった。その後、アジアやアフリカの発展途上国の経済発展の支援を目的として、先進国が主導してきた国際通貨基金(IMF)、世界銀行(国際復興開発銀行)に対抗して、2015年には新開発銀行(BRICS開発銀行)を設立し、国際的な影響力の拡大を目指している。

下記の表にまとめたように、世界に占める割合では、人口が4割、面積が3割、GDP 規模が4分の1となっていて、その影響力の大きさが窺える。また近年、不足が懸念されているレアメタルについても、中国・ロシア・南アフリカ共和国をはじめとして、この5か国が生産している割合が高く、「資源大国のグループ」という面も見逃すことができない。

国名	ブラジル	ロシア	インド	中国	南アフリカ共和国	世界に占める割合
人口 (万人)	21,531	14,471	141,717	142,589	5,989	40.9%
面積 (万 km ²)	851	1,710	329	960	122	30.5%
GDP (億ドル)	16,090	17,788	32,015	177,341	4,190	25.6%
主な鉱産資源 [エネルギー資源を除く] ※各鉱物において、世界全体におけるシェアが5%以上(2019年～2021年の数値)の国の鉱物に限定。	鉄鉱石、ボーキサイト、すず、 <u>バナジウム</u>	金鉱、銀鉱、 <u>ダイヤモンド</u> 、 <u>ニッケル</u> 、 <u>バナジウム</u> 、 <u>アンチモン</u> 、 <u>パラジウム</u> 、 <u>コバルト</u>	鉄鉱石、ボーキサイト、亜鉛鉱、 <u>クロム</u>	金鉱、銀鉱、鉄鉱石、ボーキサイト、銅鉱、鉛鉱、亜鉛鉱、すず、 <u>タンガステン</u> 、 <u>モリブデン</u> 、 <u>バナジウム</u> 、 <u>アンチモン</u> 、 <u>チタン</u> 、 <u>ジルコニウム</u> 、 <u>リチウム</u> 、 <u>レアース*</u>	<u>ダイヤモンド</u> 、 <u>クロム</u> 、 <u>マンガ</u> 、 <u>バナジウム</u> 、 <u>チタン</u> 、 <u>ジルコニウム</u> 、 <u>バナジウム</u>	※左欄の中で下線を引いたものはレアメタル。 *レアース…レアメタルのうち、産出量が少なく、抽出が難しいもの。希土類元素ともいう。

▲BRICS 諸国のあらし

出典：『世界国勢図会 2023/24』、『世界の統計 2023』より作成。

[人口:2022年/面積:2021年/GDP:2021年]

【BRICS の拡大】 2023年8月末の第15回BRICS首脳会議で、新たにサウジアラビア、エジプト、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イラン、エチオピアが加わり、11か国となることが承認された[2024年1月1日より]。これらの国々は、「成長が期待される新興国」として、先に挙げたゴールドマン・サックス社の2007年のレポートなどでも注目されていた国々で、BRICSが多国間協力の組織体として、国際的な影響力を強めていく点からも注目が集まっている。